

平成23年度カーボンフットプリント試行事業  
第1回カーボンフットプリント・ルール検討委員会  
議事要旨

日時：平成23年7月19日（火） 13:00～14:45

会場：全日通霞ヶ関ビル 8F 大会議室（A）

●出席者

稲葉委員長、玄地委員、齋藤委員、辰巳委員、西尾委員、平尾委員、横山委員

●議題

1. 開会
2. カーボンフットプリント・ルール検討委員会の議事の公開について
3. カーボンフットプリント制度試行事業における本委員会の位置づけ
4. 本年度のカーボンフットプリント・ルール検討委員会における検討の範囲
5. WG及び実証実験の内容
  - (1) サービスWG及びサービス分野のカーボンフットプリントに関する実証実験の内容
  - (2) 広範囲PCRに関する実証実験の内容
  - (3) 表示の多様化に関する検討の内容
6. その他の論点に関する検討について
7. ルール検討委員会における取りまとめについて
8. その他

●議事概要

- ・冒頭、経済産業省 環境調査産業推進 岩切室長より、試行事業の3年目を迎えること、試行期間中に検証を受けたものについては、一定条件のもと暫定措置として来年度も使用できるよう、プログラムホルダーと相談していきたい旨の挨拶があった。
- ・稲葉委員が委員長として選出された。
- ・議題2.～議題7.につき、事務局より説明が行われた。
- ・議題2.について、本研究会の議事は原則として傍聴を認め、配布資料および議事要旨についても原則として公開することが了承された。
- ・議題3.について、ルール検討委員会における検討の範囲についての事務局案が了承された。
- ・議題4.～議題7.について、事務局の説明をもとに、追加すべき課題を含めて検討・審議が行われた。いずれも進め方について事務局案が了承された。委員各位のコメントは以下のとおり。

議題4 本年度のカーボンフットプリント・ルール検討委員会における検討の範囲

- 資料7のその他の検討事項が2つに限られているが、それ以外も議論の必要があれば検討することとすべき。

## 議題 5 WG 及び実証実験の内容

### (1) サービスWG 及びサービス分野のカーボンフットプリントに関する実証実験の内容

- 消費者の目線から見たときに分かりよいものがあつたら身近に考えられるため、民生に近いサービスがあるとよかった。
- 廃棄物に関してはこれまでの試行事業でも取り組んできており、契約ごとに中身の組成が異なり単位処理量あたり CO2 排出量も再現性が低い、過去の実績をそのまま CFP 値として用いることが適当ではない等の過去の議論を考慮した方がよい。

### (2) 広範囲 PCR に関する実証実験の内容

- 昨年度は食品のみだったので、それ以外の分野も含め、どのような範囲でまとめられるのかを議論していきたい。
- 既に認定済みの PCR との関係・違いも検討する必要がある。
- 広範囲 PCR と製品別 PCR の大きな違いとして「シナリオ」があると考えられるので、シナリオ設定の扱いについて検討する必要がある。
- 広範囲 PCR に基づいて算定した製品は、マークにも「広範囲 PCR」と表示しているが、第三者評価を経ているという意味では表示しなくても良いのではないかと。
- 事業者にとってどちらが使いやすいのかも検討項目に入れた方がよい。実証に参加した事業者で課題等をヒアリングして報告すること。
- 問題が無ければ、採択された事業者のみでなく全ての事業者が使えるようにしてよいのではないかと。
- 普及という観点からも、広範囲 PCR が使われるのは賛成である。

### (3) 表示の多様化に関する検討の内容

- 三信化工株式会社が既に検証済みの削減率表示は、過去との比較ではなく製法の違いであった。事例を積み上げ、伝えたいことを伝えられる表示になっているのか考えることが必要である。
- 数値無しの申請がまだないということだが、ニーズと照らし合わせて検討する必要がある。
- 受容性調査の結果を踏まえ、更に検討が必要。
- 多様な表示は事業者の目標にもなり得るので、運用していった方がよい。

## 議題 6 その他の論点に関する検討について

- 暫定措置として販売段階を対象外としているが、事業者のデータ収集への取組みを踏まえた議論が必要である。
- カットオフルール適用が検討課題として挙げられているが、これは対象範囲の設定の仕方の問題ではないのか。
- その他の論点として、他の制度との連携、例えばタイプ 2 の基準に使いたいという場合、CFP をどう引用・利用等できるのか考えておいた方がよいのではないかと。他の制度にも CFP を上手く活用してもらいたい。

- カーボンオフセットとの連携については、現在環境省で検討会もされておりそちらの議論も注視している。

以上